

残雪の尾瀬・燧ヶ岳のはずだったが・・・

5月2日～3日（金夜発）

塩D

GWの予定はずと前から
槍ヶ岳に登る計画だった。そ
れが諸般の事情により、Ok
さんにLをお願いして、会津
の山か尾瀬の燧に行く事に
なった。

「会津駒でも田代山でもい
いよ」と言った緩い計画。松
枝岐の御池までの道が通れる
かどうか判らず、どうしやう
か？と相談していたら、町田
さんパティーからも参加の希
望があり総勢7人の参加で、
コースも富士見峠から長蔵小
屋経由の計画に変更。

ところが参加予定のKさん
が風邪をこじらして、他の
人に移すのは忍びないとキャ
ンセル、しかも出発当日Lの
Okさんも農作業で足を怪我

して急遽ドタキャン、何だか
怪しい先行きです。

二人とも残雪の燧には行き
たかったはず。気持ちをリセ
ットして東松山から出発！

前夜の宿泊は沼田インターか
ら降りてすぐの道の駅だった
かな？、5人でまずは入山祝
いで、勿論カンパイ。



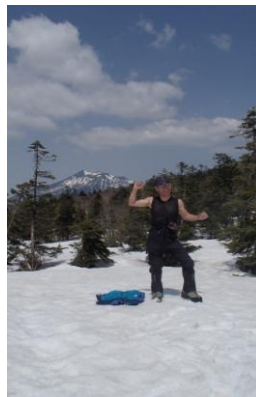
翌日2台の車で富士見下ま
で、駐車場はGWなのにガラ
ガラ、以前は尾瀬沼へのメー
ンのコースだったとか。

私を先頭にいざ出発。たっ
ぷり雪を含んだ夏道を軽快に
登る、天気は上々紺碧の空を
仰ぎながら気持ち良い雪道を
登る、右に予定のコースの白
尾山の稜線が現れる頃、あや
め平側の雪庇の崩壊の後、恐
ろしい。恐々と歩を進めると
やがて雪にすっぽり埋まった
富士見小屋に到着。

稜線に上がってみると、雄
大な燧がその姿をあらわした。
皆さん感動して写真を撮りま
くる、ただしゆっくりペース
で、すでに12時を回ってい
る、はてこの先長蔵小屋まで
たどり着けるかな？とか思い
つつ出発。

尾瀬はまだまだ残雪、雪が
しまっていてとても歩きやす

い。前方に白尾山、その背後
に皿伏山が続く、尾根道を全
く自由にトレース出来る、雪
山の魅力はそんな自由な道を
歩く事にあるのかもしれない。



しかし、まだ5月だと云う
のに熱い、ファイントラック
の下着一枚になっても汗が滴
り落ちる、2時半頃白尾山の
山頂の平原に到着。休憩か
な？と思いきやLのMsさん
から「今日はここで幕営」の
指示、確かにこの先も長く長
蔵小屋までは届かないだろう。
そうと決まったら、早速テ
ント場の設置、鷹揚に鎮座し
ている燧を前に整地する。そ
れもまるで測量技師のように

念入りに平らにする。どうも
蓼科山の雪洞作り以来寝床の
平らに拘っている。

M sさんが風除けの為の雪
のブロックを構築、K gさん
は水にする綺麗な雪を集め、
S jさんとI kさんはスノー
テーブルで夕食の準備です。



とにかくこのテント場は恐
らくこれまで経験した事の無

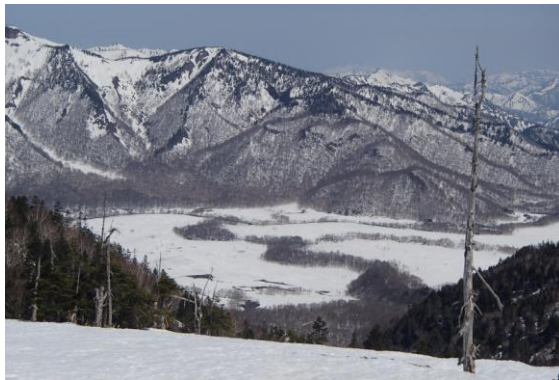
い天上の楽園と言った趣、テ
ントのジッパを開けたら燧
ヶ岳が覗くなんて、最高の贅
沢です。

確かに厳しい雪道をひたす
ら頂上を目指す事も登山のだ
いご味でもあります、たま
には（というか今シーズンは
こんなおぼつか）雄大な景
色を堪能するマツタリした雪
山もいいね。

さて極上の楽園で楽しいデ
イナーの始まり、雪で冷やし
たビールや白ワインとS jさ
んの焼き肉のコラボ、思わず
「しあわせ」と心から思う
ひと時です。まだ陽も上がつ
ていないと云うのに、こんな
時間から宴会！

という事で最高のベットで
早めの就寝。12時頃目覚め
たら外は雪明かり、あまりの
月明かりで星の輝きも消され
ていた。

2日目 白尾山へあやめ平
翌日の天気予報が悪く、燧
に行かず下山開始。登りのト
レースも無視して富士見峠、
荷物をデポしてあやめ平に向
かう。



およそ1時間ほどの登り、
そのまっ平らな雪原からは尾
瀬の一大パノラマ、東に勿論
主峰の燧ヶ岳、景鶴山から越

後の山々、西に至仏山、そし
て眼下に広がる尾瀬ヶ原は絶
景です。言葉がありません。

K gさんと来年の残雪期は
あの景鶴山に登ろう！と一年
先のお約束、そういえばもう
来シーズンの雪山の約束が幾
つもあってこんな約束して大
丈夫かな？

皆で記念写真を取って富士
見峠に戻る。やはり帰りもあ
やめ平側の雪庇が気になり、
急いでトラバース、あの巨大
な雪の塊が襲ってきたら影も
形もないだろう。



マツタリ雪山の締めは片品
の釜めし屋さん、生ビールを
一杯頂いて筍ご飯を頂いた。